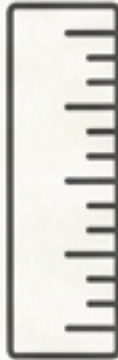


サワギキョウ (沢桔梗)

湿原を彩る気高き紫。その生態と観賞の心得。



Plant Profile: 基本情報

	キキョウ科ミゾカクシ属 (ロベリア属)、多年草 (宿根草)		原産・分布: 日本、朝鮮、 中国、ロシアなど東アジア 一帯の湿地・沢沿い
	花期: 8~9月		草丈: 50~100cm

呼称の多様性: チョウジナ (丁字菜)、山梗菜 (サンコウサイ)、アギ、宿根ロベリア (園芸名)

Botanical Anatomy: 全体像と構造



【茎】内部は中空で直立し、枝分かれしない（無毛の黄緑色）。

【葉】無柄（茎に直接つく）で互生。笹の葉のような細長い披針形。葉の縁には「細かく鋭い」鋸歯（きょし）がある。

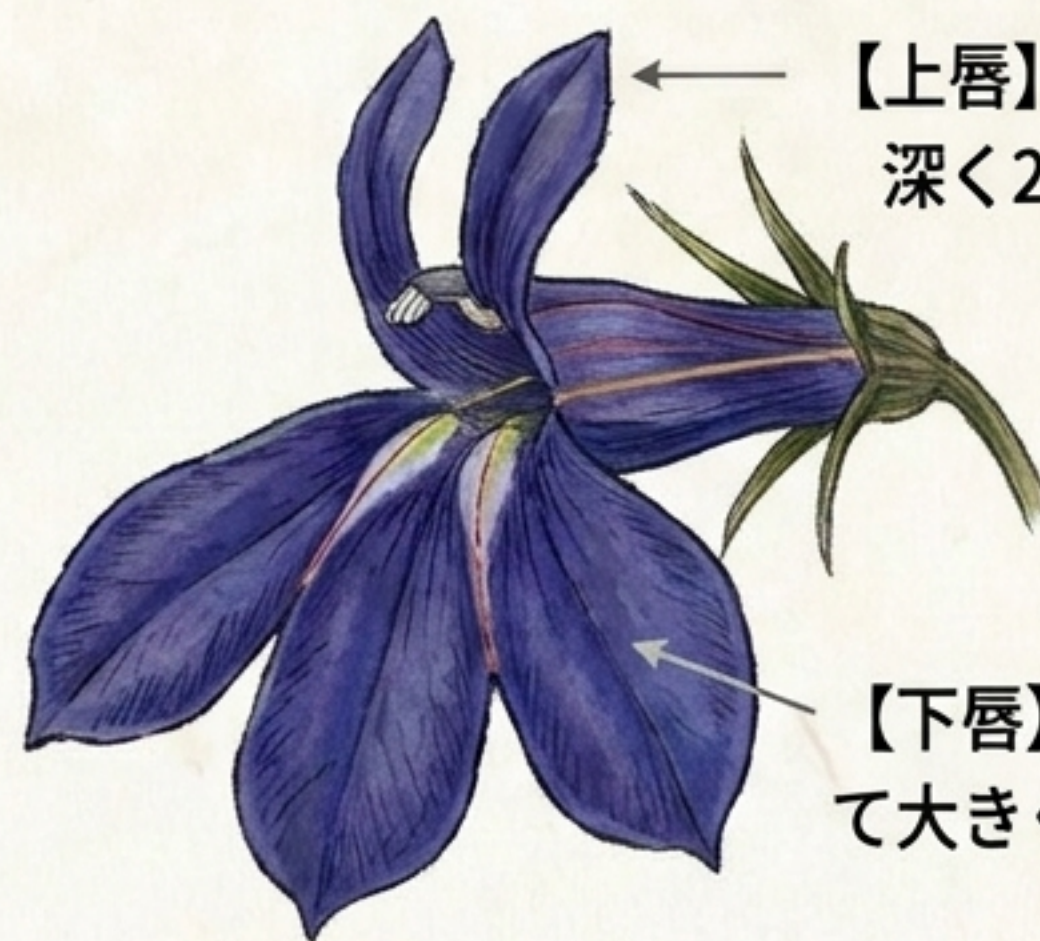
【根】地中を横に這う太い根茎。冬期に地上部が枯れた後も、この根茎の状態で休眠し越冬する。

Floral Architecture: 独特な花のフォルム

一般的なキキョウとは異なる、左右相称の精巧な造形



【咲き方】 茎の上部に
(咲き方) 茎の上部に
多数の花が連なる
「総状花序 (穂状)」。
下から上へと次々に咲
えき上がる。



【上唇】 鳥の翼のように
深く2裂する上部。

【下唇】 3つに中裂して
て大きく広がる下部。

【色彩】 鮮紫青色 (濃青紫色)

Reproductive Strategy: 雄性先熟 (ゆうせいせんじゅく) のプロセス

自家受粉を防ぎ、遺伝的多様性を保つための賢明な仕組み



【Step 1: 開花直後】5本の雄しべが合着して筒状になり、内側の雌しべを包み込む。



【Step 2: 雄花期】筒状の雄しべの先端から花粉を散布し、出し尽くす。



【Step 3: 雌花期】花粉がなくなった後、中から雌しべが伸び出し、先端（柱頭）が2裂して他家受粉の体制に入る。

Habitat & Lifecycle: 自生環境とライフサイクル

沢沿いの湿原

【深秋～冬】葉が鮮やかに紅葉。その後地上部は枯れ、太い根茎のみで過酷な冬を越す。

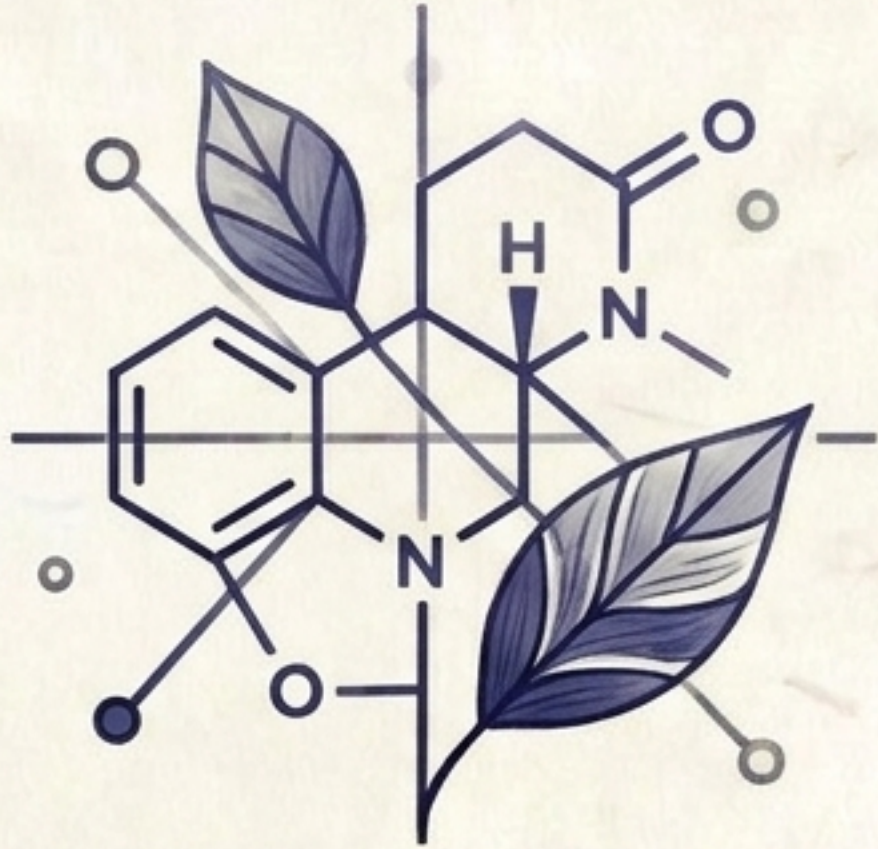
【春～夏】芽出し～成長。日当たりと豊富な水分を求めて直立。

【晩夏～初秋】8～9月に開花。微小な翼状の種子を無数につけた蒴果（サクカ）を結ぶ。

山地の湿原・水辺
(大群生を形成)



Precaution & Toxicity: 美しさに潜む防御機構



【生存戦略としての毒】全草にアルカロイド成分（ロベリン）を含む「有毒植物」。これは自ら動けない植物が、野生動物からの食害を防ぐために獲得した自然の防御機構。

【取り扱いへの注意】

- 誤って口にすると、血圧降下や麻痺などを引き起こす恐れがある。
- 鑑賞や栽培の際は、直接口に触れないよう「取り扱いへの注意」が必要。

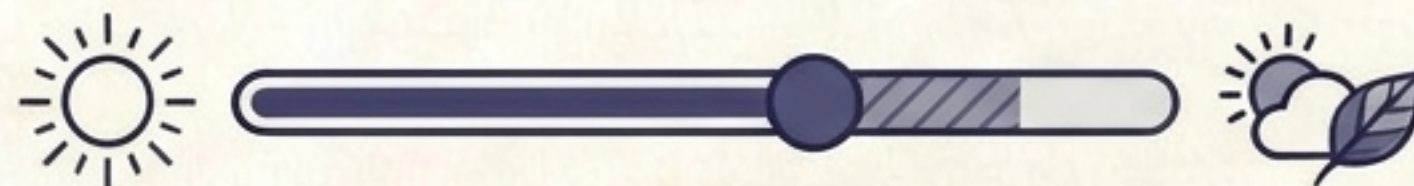
Cultivation Matrix: 栽培と管理の要点

【Water / 水】



- ✓ 常に湿り気を保つ「腰水栽培」。
- ✗ 極度の乾燥・水切れは厳禁。

【Light / 光】



- ✓ 日当たりと風通しの良い場所。
- ✗ 夏場の強い西日は避ける（半日陰へ）。

【Fertilizer / 肥料】



- ✓ 春～初夏に薄い液肥を少量。
- ✗ 与えすぎは茎が伸びて倒伏（倒れること）の原因に。

【Temp / 温度】



耐寒性は非常に強い。特別な防寒なしで屋外越冬が可能（冬場も根茎を乾燥させないこと）。

Dual Nature & Meaning: サワギキョウの二面性と花言葉

誕生花：9月22日・9月30日・10月30日

‘The Light’



【光】「高貴」「特異な才能」「卓抜」

由来：まっすぐに伸びる気品ある姿。風で倒伏しても、自力で茎を持ち上げ上を向いて咲く、特異で力強い生命力から。

‘The Shadow’



【影】「悪意」「敵意」

由来：その気品ある風情とは裏腹に、強い有毒成分を全草に密かに隠し持っているというギャップへの畏怖から。



湿原を彩る気高さと、命を守るための毒。

自然の摂理を理解し、
敬意をもって愛でる。